



～おかげさまで創業45年～
数多くの「出会い」と「笑顔」を礎に
今日を迎え 感謝を込めて

当社は、2019年8月に創立45周年を迎えました。

この記念すべき45年という節目の年を迎えることができましたのも

これまでさまざまな形で私たちを支えてくださった

オーナーさま・お客さま・ご関係の皆さまに篤くお礼申し上げます。

“これまで”に「出会い」をご頂戴した皆さまのお支えに感謝し

“これから”も皆さまの「笑顔」を大切に

報恩感謝の人生を歩んでいきたいものと希っています。

取締役会長 吉田 光一



<https://flat-a.co.jp>

本社 〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町9-1

TEL 0120-75-0669



ひと・であい flat agency

フラットニュースレター

ふらっと通信



2019年(令和元年)
12月3日発行
株式会社フラットエージェンシー



株式会社フラットエージェンシー 創業45周年



おかげさまで

フラットエージェンシーは

創業45周年を迎えました。

皆様のご愛顧、ご支援に

心より感謝申し上げます。

2019年11月

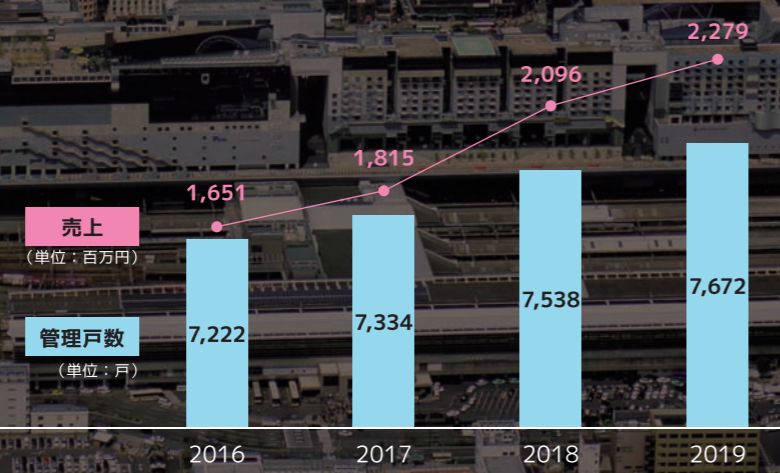
株式会社フラットエージェンシー

代表取締役 **吉田 創一**



4年間の推移

2016年から2019年までに
管理戸数は450戸増加、
売上は6億2800万円の増収となりました。



目の前の“縁”をつなぐー

「不動産営業」が向き合う京都のまち

1974（昭和 49）年創業の株式会社フラットエージェンシー。

不動産会社でありながら、自らの事業を“まちづくり”と定義し、

さまざまな取り組みに挑戦しています。

代表取締役の吉田創一（よしだ・そういち）さんが

創業者・取締役会長の吉田光一（よしだ・こういち）さんの後継者として約4年。

今回は吉田社長に、今年で創業45周年を迎えた同社の現在の取り組みや、

今後どんな会社にしていきたいかの想いなどを改めてインタビュー。

さらに3人の社員さんも加わった座談会を開き、和気あいあいと語り合っていました。



目の前の物件一つひとつに向き合い、人を「つなぐ」

地域の声を、確かな“かたち”に

吉田社長にまずお聞きしたのは、直近での“まちづくり”の取り組み。新たに紹介いただいた3つの事例は、どれも賃貸や売買を通じてのご縁から声がかかり、企画提案から運営までを担った「フラットエージェンシーだからこそ」のものでした。

1つ目の実績は、この春にオープンしたばかりの『木野寮』。京都精華大学と提携した学生寮で、前回の記事で紹介したスペース『the SITE』の成功を受け、フラットエージェンシーに相談されたといいます。

「元はある会社の寮だった建物を、大学の留学生寮にしたいということでした。日本と海外の学生がキャンパスの中だけでなく、ここで生活も共にすることで、広い意味での『学びの場』をつくりたいと。

築50年ぐらいでしたが構造はしっかりしていたので、あるものを生かしつつ、共用部分を学生が集まりやすい雰囲気になっています。



木野寮南棟 談話室

昨年末に募集を開始して、ありがたいことにすぐに満室になりました。寮の運営も、私たちがさせていただいています」

2つ目の事例は、『新大宮広場』。2018年10月、新大宮商店街の一角に誕生した「地域の居場所」です。日々さまざまなイベントで賑わいを見せているこの広場は、地主さんからの相談で生まれたといいます。



新大宮広場 HP

「所有している土地の活用に困っていらっちゃって。できればマンションなどではなく、みんなが集えるような地域の憩いの場にしたい。そんな想いを受けて、約1年かけて一緒に計画から立てました。オープン直後から注目していただいて、現在も平日はほぼ出店の予約がいっぱいの状態です」

そして3つ目は、「泊まれる時代劇」をコンセプトにした宿泊施設『京都西陣おじ』です。路地を囲むようにつながっていた7棟の空き家のオーナーさんからご依頼を受け、企画から約2年、工事だけでも1年をかけて建物を改修。2018年末、上京区・西陣に誕生しました。

「西陣は、『千両ヶ辻』（1日千両の商いが飛び交ったことが由来）といった名前が残るほど、京都の着物や織物の中心。江戸時代に栄えたエリアへとタイムスリップするようなコンセプトにし、町家の魅力とあわせて世界に発信できれば、と考えました」

不動産の管理をしている中で、「こんなことをしてほしい」「こういうのがあればいいな」という声は他にも入ってきていると、吉田社長は話します。「まちづくり」を明確に打ち出し、いくつもの

取り組みを実践してきたフラットエージェンシーは、地域の方にとっては誰よりも相談しやすい存在なのかもしれません。

目の前の物件一つひとつに向き合い人を「つなぐ」

それぞれの地域での相談に応じ、物件をかたちにしていく。この2年での成果に手応えを感じる一方で、吉田社長は「まだまだこれからですよ。いただいた声を、さらにどうつないでいくか」と続けます。

「『このまちを盛り上げたい』という想いは、みなさんずっと持ってらっしゃったと思うんです。それが今ちょっとずつ、表に出てくるようになってきた。私たちもそのサポート役をさせていただく中で、いろんな経験を積みながら、もっと成長しないと、と思うんです」



フラットエージェンシーは、全社で100名を超えるスタッフが働いています。

先に挙げたような特徴的なプロジェクトは、社内でも「営業」や「管理」など部門を横断していくものになりますが、実際まだ多くの社員は関わっていない状態とのこと。

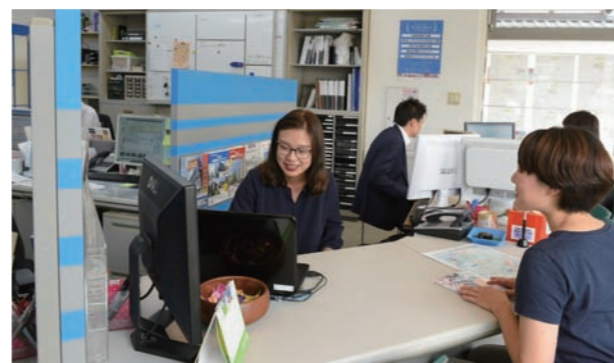
「私としては、積極的に社員から企画・立案の手を上げてくれるとうれしいなと思っています。言われたことをやるのと、自分からやるのとでは、成果が全然違いますから。」

ただ経営者側も、社員がこういうことに携われて、より『仕事が楽しいな』と思ってもらえるような仕組みづくりをしていく必要があります。連携のネットワークも、もっと強固にしていけないといけませんね」

「オーナーさんと入居者さん、どちらかの希望だけ聞いても成り立ちません。なぜ契約が決まるのか、決まらないのかを考えながら、現場でニーズをしっかりと把握し、すり合わせていく。そのおもしろさがわかってくると、自然と学ぶようになって、さらにいろんな提案ができるようになると思いますよ」

お部屋探しは今後、SNSでの口コミやVRなどどんどん発達していくので、きちんと管理された物件であれば入居者が自然と集まってくる。だからこそ、どんな物件であれば入居してもらえるのかを考える、「ビフォアサービス」の部分がより大切になると吉田社長は話します。

「みんな、現場でいろんな声を聞いているはずなんです。」



そこから、『もっとこうした方が』と考えていくことで、結果として私たちがお預かりするこのエリアが、住みやすい場所になっていければと。

オーナーさんたちも、いろいろと悩みを抱えてらっしゃいます。それでも自分が受け継いだ土地や物件を、簡単に手放したくはない。また次の世代に、つないでいきたいと考えているんですね。そこを一緒に考えるのが、不動産業という仕事の楽しさであり、魅力なのかなと思っています」



02 Round-table talk

人が“関わり”を続ける会社

次に取材陣は、同社が2014年にオープンした地域の交流サロン

『TAMARIBA（たまりば）』のカフェ（風良都：ふらっと）に移動し企画・広報の村井小紅（むらい・こべに）さん、営業の早川亘（はやかわ・わたる）さん、集客対策チームの三宅花奈（みやけ・はるな）さんの3人に加わっていただきました。

実際の会社の雰囲気はどういった感じなのか、それぞれ今どんな想いで働かれているのか。

ここからの後半では、4人の座談会というかたちで、

リアルなフラットエージェンシーの姿をお届けしていきます。

一まずは、みなさんの入社経緯や、これまでのお仕事についてお聞きできればと思います。村井小紅さんと早川亘さんはそれぞれ、少し変わったかたちで入社されたと聞きました。いったいどんな出会いだったのでしょうか…？

村井：私は2008年の入社ですが、会社との関わりは大学に入ったときからです。当時住む家を探す中で、フラットエージェンシーが管理している寮を抽選で引き当てて。

入ったあと、「アルバイトしないか」と声をかけられたのがきっかけですね。初めはデータ入力の仕事をしていました。でも、京都造形芸術大学で学んでいたこともあって、だんだんチラシなんかも作るようになって。気づいたら引き込まれてました（笑）。就職活動のときも、『そのまま雇ってもらえませんか』って相談したら、いいよって。今は株式会社エフサポート（フラットエージェンシーの関連会社）の所属で、企画・広報をしています。



一くじ引きからのご縁だったんですね（笑）。入社 11 年目とのことですが、すでに産休も 3 回取られていると聞きました。取りやすい環境だったんでしょうか？

村井：私の前に別の女性が取られたとき、うちの常務がいろいろ制度を勉強してくれたみたいなんです。で、よかったらこういうのも使えるから書類を書いてと。めっちゃスムーズに取らせてくれました。復帰するときも、時短制度があるから使ってたねって。

最初の方と私がつづけて産休を取ったので、その後みんなスムーズに取って、復帰しています。

一戻りやすい雰囲気もきっとあるんでしょうね。早川さんはどうですか？

早川：僕が入社したのは 2013 年です。出会いは、新卒の就職活動ですね。就活していても正直、あんまり何にも興味が持てなかったんですが（笑）、内定をもらった先のひとつが不動産業でした。ただ、それはフラットエージェンシーではなくて。



早川：実は、うちの実家がずっとアパートを持っていて、その管理をお願いしていたのがフラットエージェンシーでした。

内定の話をしたら、他の企業で不動産するくらいやったら、フラットさんの方がいいんじゃないかと。で、社長（当時専務）に話をしたら「ぜんぜんいいですよ」って、すごくソフトな感じで面接してもらいました（笑）。

一家主さんのご縁なんですね。入社されてからはずっと営業の仕事？

早川：営業ですが、ずっとじゃないんです。実は僕、一度退社してて。

一え、辞められたんですか？

早川：働きはじめてから、全く違う仕事をしなくなってしまって。

僕は不動産オーナーの息子でもあるので、家に帰っても仕事の話ばかりになります。長い人生の中で、一生これだけに関わるのかと考えてしまったんですね。

で、不動産とは全く別の世界に挑戦してみたいこともできたので、単刀直入に会社に相談してみたんです。すると「そんなに思うんやったら、やってみたら」って言ってもらったので、飛び出しました。

一背中を押してもらったんですね。では、戻ったきっかけは…？

早川：そもそも辞めてからも、人手が足りない週末とかに、お手伝いなんかをしに来てたんですよ。

村井：早川くん、しばらく来てたよね？（笑）

早川：そう、会社にはずっと顔を出してて。みんな「こいつ本当に辞めたんか？」って感じだったと思うんですけど（笑）、食事行こうやとか、飲み行こうやとか、変わらず良くしてくれたんですよ。

早川：そういう付き合いを続けていた中で、あるときに、家のことですごくつらいことがあったんですが、会社が助けてくれたんです。



早川：「助けられた…」って思ったとき、フラットエージェンシーに帰りたくなったんですよ。ちょっと家出してたのが、優しくされて親心があった感覚というか（笑）。

恩返しをしたくなって、今年の春に戻ってきました。

一辞めてからも続いて、戻れる関係性って素敵ですね。

吉田社長：辞めて「じゃあさよなら」ということは、あんまりないですよ。自分でやりたいことを見つけて辞めるなら、尊重もしたい。そういう人で、今も付き合いがある人はたくさんいます。産休にしても一緒ですが、やっぱり経験がある人が戻ってきてくれるのはありがたいですからね。

新しい取り組みを、現場から発信

一では次に、三宅花奈さんにお聞きします。どういったきっかけで働こうと思われたんですか？

三宅：私は、もともとまち歩きや建物を見るのが好きで。大学でも、建築の勉強をしていたんです。研究をしていく中で、居住空間だけでなく、「まちの暮らし」全体の構築に関心が移って。京都の、不動産会社で働くことを考えるようになりました。



三宅：「まちを知り尽くしてる」ところで修行したいなと思って、就職先も大手ではなく、できるだけ小さい会社を探していました。今思えばフラットエージェンシーは正直、考えていたよりだいぶ大きかったですね（一同笑）。

一入社 2 年目だとお聞きしました。今は何を主にされているんですか？

三宅：集客対策チームに所属していて、実務としては、Web のポータルサイトの更新とか、物件の掲載管理をしています。

それ以外に、今あるサービスで漏れている部分からの集客を狙いたいと思って、もう 1 人のメンバーと企画をしています。「このまちに住みたい」って視点から探す方法とか。まだまだ準備段階なんですけど…。

吉田社長：やっぱり大手のサイトだと、築年数や設備とかで検索されるんですよ。でもそれだけじゃ埋もれてしまう物件もたくさんある。1 件ごとにオーナーさんの想いとか、こだわりもいっぱいあるんです。そういったことも伝えられるサービスがあったらなと思っています。

三宅：私がフラットエージェンシーで良かったなと思うことの 1 つが、物件の写真を撮るついでに、京都市内をサイクリングできることなんです（笑）。まちを走ると、「この空気感・息吹を伝えたいな」って思うんですね。

そこで今チャレンジしてるのが、自転車にスマホをつけての、動画の撮影。これをいろんなまちの紹介で使えないかな、と考えてます。

早川：すごい、おもしろい。その発想はなかった。

三宅：でも、動画の編集機材とかがないので…。今はその勉強をされていて、準備ができたらちゃんと提案しなきゃなって思っています。

—**こういうアイデアって、どんな経緯でかたちになるんですか？**

吉田社長：上司の許可ができれば全然 OK です。

早川：企業風土としても、「やったらええやん」って感じですね。

以前、住み替えを検討する入居者に向けて、広告をつくらうって話になったことがあったんです。そのときの店長も「おもしろい」と言ってくれて、デザインから全部任せてもらってトントン拍子に。創意工夫して出る意見に対して、“出る杭を打つ”感じでは全くないです。

村井：私は結構、社長にも直で言います（笑）。この前は、産休や育休についてあまり知らない人が多いので、申請や手当、保育園のことなんかをしゃべって共有できる場があったらいいなあと、それも社長に相談したら「いいやん」って一言。やりたいことがいっぱいあるんですよ。

「営業」という仕事の、積み上げていく喜び

—最後に、「営業」の仕事について聞かせてください。**フラットエージェンシーって、新大宮や西陣などで、いろんな企画案件もされていますよね。早川さんも、そういうのに関わりたい？**

早川：個人的には正直、そこよりも、入居さんとオーナーさんをつなぐ仕事をしたい。「ちゃんと入居さんが入るかどうか」の方が気になりますね。もちろん、地域を活性化をさせることでまちに住みたい人が増えて、入居してくれるのがベスト。その中の役割として、僕はとりあえず目の前のお客さんを大事にしたいかなと思ってます。

三宅：早川さんのお客さんへの対応メール、めっちゃていねいなんです。全店のメールを見られるんですけど、個人的にすごく好きで。



村井：確かに。社内の連絡もマメで、分からないことは何でもすぐ聞いてくれるからありがたいです。

早川：何か急にはずかしくなってきた。照れますね（笑）。

—**早川さんの、営業としてのやりがい、おもしろさってどこにあるんでしょう？**

早川：営業は、入居さんと家主さん、お互いが納得できる場所を調整して、つくれる仕事なんです。それぞれの要望って、どうしても全部は聞けない。だからこそ、どちらも「良い」と思ってくれるバランスが取れたときは、すごくやりがいを感じます。たぶん僕自身が、一つひとつ地道に積み重ねることに、喜びを感じるタイプなんだと思いますが。

—**「フラットエージェンシーならではの」だなんて思う部分はありますか？**

早川：うちはもしかしたら、一般的な不動産営業とは少しカラーが違うかもしれませんね。あんまりガツガツしてなくて、成長を急かされる会社ではないです。「このまちが好き」みたいな気持ちを持つことが大事かなと思います。

三宅：たくさん売り上げを…というよりは、人が求めているものをキャッチして、寄り添える感性が大事な気がしています。

三宅：住環境はその人のプライベートにかかわる空間なので、そこを理解できる人。

あと、私は面接のときに「個性が必要」って言われたのも、すごく響きました。実際、自分と違った発想をする人がチームにいるとアイデアの幅が何倍にもなるので、個性的な方と働きたいです。

村井：人の話をちゃんと聞けるというのは、営業に限らないなと思います。

最初は悩むと思うんですけど、そのうち聞いた話がすっと入って、自分の言葉で話せるようになるんじゃないかなって思います。

吉田社長：そういう意味では、根本的にまじめな

「自分のことも大事に。それが仕事に活かされる」

言葉の端々から、京都への、そしてフラットエージェンシーへの愛着が感じられた今回の座談会。トークのあとも、3人の社員さんたちはそれぞれに、「京都って実はミーハーで、新旧混ざり合っておもしろい」「学生時代を過ごしていて、安心感がある」「ふるさととして守りたい」など、まちへの想いを語ってくださいました。

吉田社長自身も、「暮らす人たちがまちを好きであること」が京都の特徴ではないかといいます。だからこそ、昔からたくさんのオーナーさんにつながっていることは、フラットエージェンシーという会社の大きな魅力となっているのでしょう。

「人脈が広がれば広がるほど、いろんな仕事に携わっていけるのは間違いありません。だからこそ社員のみんなには、仕事は仕事でぴったり終わって、そのあとの時間を地域に出たり、プライベートの交友に使ったりしてほしいなと思うんです。それが仕事にも生きてきますし、個人のスキルアップにもなります。



人が会社を支えてくれる。それは感じるかな。

早川：辞めてからつながりつづける人も、みんなまっすぐですよ。歩く道は遠回りしてても、芯の部分があるなって思います。

世代を超えたつながりをまちにつくっていく、そのプラットフォームに会社になっていければと思いますね」

インタビューの最後に、こう語ってくださった吉田社長。現場での営業活動は、派手ではない、地道な積み重ねです。京都に関わり続けたいという想いをもち、人と柔軟につながり「縁」を紡いでいくことこそが、“まちづくり”となっていきます。フラットエージェンシーと共に、不動産を通じて、地域の未来を一緒に試してみようではないかと。

▼ **京都移住計画 過去の記事はこちら**

世代を超えて地域から愛される会社
不動産からまちづくり産業へ
<https://kyoto-iju.com/works/flat>



社会の課題を「不動産」で解決する
1000年を紡ぐ企業
<https://kyoto-iju.com/works/flat2>



「お客様の笑顔が、私たちの喜びです」 実践の軌跡

2015年7月 吉田 創一 代表取締役が就任してからの主なニュースをまとめました。

2017

2015

2015年6月22日
吉田 光一 取締役会長 就任
吉田 創一 代表取締役 就任



2015年3月16日
ひと・であい flat agency
創業40周年を記念して
紹介映像のDVDを制作しました。



2017年3月3日
京都商工会議所主催
「第8回 知恵ビジネスプラン」認定

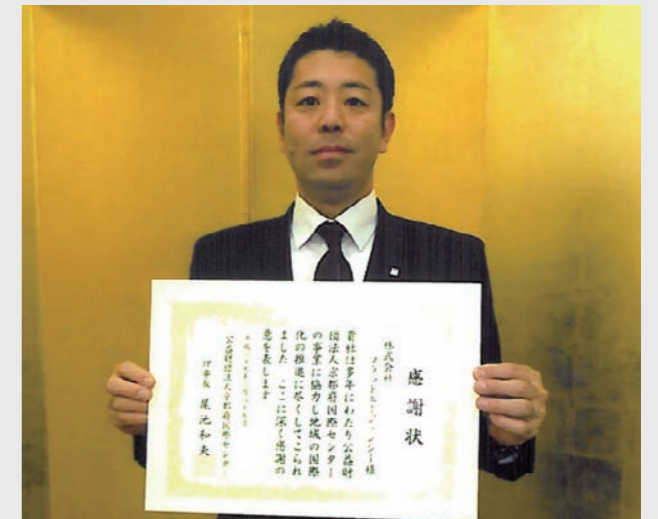


企業価値を高めて顧客創造を図る知恵ビジネスを認定し、さまざまな支援を行う「知恵ビジネスプランコンテスト」におきまして、当社の『新たな京町家スキームによる地域活性化への取り組み』が認定の栄誉を受けました。

2017年4月25日
京都新聞 朝刊
京商ニュース掲載



2017年3月25日
多年の留学生支援 感謝状受理



公益財団法人京都府国際センターの事業支援に、多年わたり貢献したとして、尾池 和夫理事長からフラットエージェンシー 吉田 創一 代表取締役に「感謝状」が贈呈されました。

2016

2016年10月1日
the SITE リノベーション



旧美術学校をリノベーション、アーティストの集まる新たな活動の場所として生まれ変わった「THE SITE」。「過去から未来へと、新たな価値が解き放たれていく空間になって欲しい」という思いが込められています。



2016年11月8日
読売新聞
美術学校跡アートの手
左京にシェアアトリエ



2016年12月9日
京都精華大学
「木野通信」



2017年3月24日
食事付き学生寮
『カレッジコート』2棟竣工

学生マンションの「新しいカタチ」始動。
見学会は80名を越える参加者でにぎわいました。



2017年9月16日
京都新聞 朝刊
留学生の
住居仲介に力



2018年10月25日
大学ジャーナル
11月号 vol.131
京都で初 留学生の居住支援



2017年5月11日
第2回

「これからの1000年を紡ぐ企業認定」



自社を「まちづくり業」と定義し、京都のまちの課題を「不動産」というツールで課題解決を図っている点が評価され、主催者を代表して、門川大作京都市長から認定書と北山杉のトロフィーが吉田創一代表取締役役に授与されました。

2018年4月14日
京のまち企業訪問
『京都の企業特集 2018.04.14』

2017年10月25日
京都市ソーシャル
イノベーション
研究所 インタビュー

2017年11月1日
「西賀茂のいえ」

2017年グッドデザイン賞 受賞



1つの敷地に「長屋」と「戸建て」を混在させ、出来た隙間の庭を互いに共有する暮らし。公益財団法人日本デザイン振興会が主催する『GOOD DESIGN AWARD 2017』にて、有限会社レジデンス太田と中田哲建築設計事務所と当社が手掛けた『西賀茂のいえ』がグッドデザイン賞を受賞いたしました。

2017年12月22日

経済産業省

「地域未来牽引企業」選定



経済産業省より「地域の特性を生かして、高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより、地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開されること、または、今後取り組まれることが期待される企業」として、当社を「地域未来牽引企業」に選定いただきました。

2018年11月13日

「平野別邸」完成見学会
今までにない住まいを

北には平野神社があり、敷地の東側は北野天満宮の広大な杜に隣接。京都市内でも珍しい静寂な地域に、「今までにない住まいを」という所有者の思いから誕生した「平野別邸」。おもてなしをコンセプトに、パーティや催しなど、さまざまなプロデュースを可能とした住まいとなりました。



2018年11月1日

「京都西陣ろおじ」泊まれる時代劇

かつて映画館が集中していたこの地、西陣エリア。映画の歴史と、西陣の多層的な歴史を踏まえ、史上初の“松竹映画撮影所”の大道具、小道具スタッフによるリノベーション監修のもと、タイムスリップして日本を感じることが出来る“泊まれる時代劇”が誕生しました。



令和元年度 京都景観賞 京町家部門 優良賞受賞

2018年10月5日
京都新聞 夕刊
京町家と路地
残して活気を

2018年10月21日
路地再生見学会
県内外からたくさんの方がご来場されました

2019年1月31日
近畿地方公共団体
「京都西陣ろおじ」
視察

2018年11月10日

「新大宮広場」オープン



「空地から広場へ、みんながつくる新たな居場所。」商店街の通りにポッカリできた、何でもなかった「空地」は、様々な人々の意見を受けて、手を掛けて、想いを込めて、大きな新しい器の「広場」へと生まれ変わりました。

この広場は、すべての皆様が「みんながつくる新たな居場所。」としてそれぞれ自由に愉快地に心地よくご利用いただくことによって完成します。

2018年11月9日
京都新聞 朝刊
100坪広場で
にぎわいを

2018年11月19日
KBSラジオ
笑福亭晃瓶の
ほっかほかラジオ

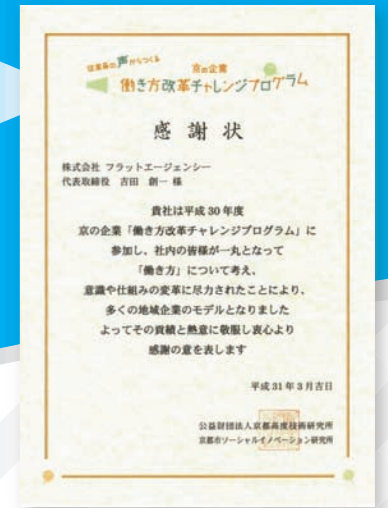
2018



「働き方改革」で紡ぐ京都の未来

京の企業 働き方改革チャレンジプログラム「感謝状」受理

京の企業 働き方改革チャレンジプログラムに参加し、「働き方」について考え意識や仕組みの変革の尽力に貢献してきた団体・企業・個人を対象として公益財団法人 京都高度技術研究所、京都市ソーシャルイノベーション研究所よりフラットエージェンシー 吉田 創一 代表取締役にて「感謝状」が贈呈されました。



家族のようなつながりを大切に ともに成長できる企業風土を醸成

経営に関する情報収集や人脈作り、従業員の教育など経営に役立つ情報誌『京 Business Review(キョウビジネスレビュー) 京都商工会議所会報 No.749』で、当社の「働き方改革」の実績を紹介いただきました。

2018年11月30日
京都中小企業 優良企業表彰



(株)フラットエージェンシーの先進的な「ビジネスモデルの構築」(京町家の保全・再生・活用事業等)により、京都産業の振興に貢献したとして2018年11月30日(金)、西脇隆俊 京都府知事から表彰を受けました。
吉田創一 代表取締役は「創業から44年間、<うまずたゆまず>の企業努力が認められ栄誉なことです。社員さんとその家族のおかげです」「これがゴールではなく、新たなスタートとして、地域に根差し、貢献できる企業づくりに邁進したいですね」と喜びを語っています。

2019年3月30日
京都精華大学 提携寮
新「木野寮」リノベーション

もともと京都精華大学の留学生寮であった「木野寮」をフラットエージェンシーがリノベーション。管理・運営も当社が行います。食事付き、家具付き、オートロック、Wi-Fi完備と、安心・安全・快適性を兼ね備えています。



2019年5月13日
ハンケイ500m
vol.049
北川一成デザイン講習会を開催



このアーカイブで紹介しているニュース記事、その他の記事はフラットエージェンシー公式サイトに詳細が掲載されています。

フラットエージェンシー公式サイト
ほっとニュースリリース <https://flat-a.co.jp/info/>



チャレンジ! 働き方改革

FILE.02 株式会社 フラット・エージェンシー

家族のようなつながりを大切に ともに成長できる企業風土を醸成



「働き方改革」を進めるには、自主性が必要な部分が生かしながら、業務の個人化を推進し、業務の共有で業務効率を上げる。また、従業員の声に即した改革を実施していった。これは、信頼関係の構築につながった。これは、制度の変更にとついても、トップダウンに即ちという感覚で受け止められていたと思うんです。しかし、従業員自身が会社のことを自分のこととして考え、声をあげる習慣ができたことで、社内改革にも理解を得られるようになりました。「家族」という言葉には、長い目で育てていく会社の風土も必要だと感じています。という中川専務の言葉に、吉田社長も大きくうなずく。「働きやすい環境を整え、働きがいのある会社にしていくことで、ここでがんばってほしい」という思いも生まれると述べています。そうした個人の成長が会社の成長にもつながるとの信念をもって、一歩ずつ進んでいきたいですね」と、これからの抱負を言葉に託した。



株式会社フラット・エージェンシー
代表取締役 吉田 創一
〒600-8201 京都市北区新町西園田町 9-1
TEL / 0120-75-0609 (本線)



京 Business Review
No.749
2019年9・10月号



『働き方改革チャレンジプログラム』では、吉田創一社長自らも従業員で構成するプロジェクトメンバーと一緒にテーブルについて。

ミーティングを重ねる中で出てきたのが『家族的』というキーワード。従業員全員へのアンケートでも、つながりを求める声が多く経営陣にとっては意外だったという。

そこで一度業務の流れを見直し、何が必要で何が過剰かを洗い出し、従業員の声に応える改革を実現していったことが、信頼関係の構築につながった。

従業員自らが会社のことを『自分のこと』として考え、声をあげる習慣ができたことで、社内改革にも理解を得られるようになりました。

「『家族』という言葉には、長い目で育てていく会社の風土も必要だと思っています。」という中川専務の言葉に、吉田社長も大きくうなずく。「働きやすい環境を整え、働きがいのある会社にしていくことで、ここでがんばってほしい」という気持ちも生まれると考えています。そうした個人の成長が会社の成長にもつながるとの信念をもって、一歩ずつ進んでいきたいですね」と、これからの抱負を言葉に託した。(※左記事より一部抜粋)

第53回 経営士全国研究会議 京都大会

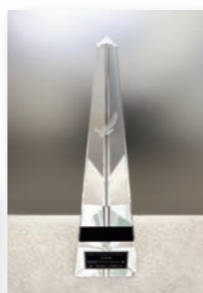
日本経営士会で「会長賞」の栄誉にかがやく

2019年(令和元年)9月14日(土)、京都では27年ぶりに「第53回 経営士全国研究会議 京都大会」(主会場：京都タワーホテル)が「伝統と共創」をテーマに開催され、全国から約300名の経営士が参集しました。

ビジネス・イノベーション・アワード 2019 表彰式では、フラットエージェンシーの永年にわたる「まちづくり業」としての「伝統を活かして、新しい交流を生み出す」という、数々のビジネスモデルが評価され、栄誉ある「会長賞」を受賞いたしました。

「優秀賞」としては、全国でユニークな事業を展開する12社が受賞しました。

「会長賞」をいただいた、吉田光一 取締役会長は、多くの方々に支えられて今日に至った感謝のおもいとともに、進化する種々の事業への挑戦の意気込みを語りました。



100人ダイアログin西陣 「NISHIJIN 新しい京都を創るまち」

西陣R倶楽部 X 西陣サロン

歴史・文化・匠のまち、その息吹を伝える京都西陣。西陣を活力のあるまちにしようとする、事業者、公共団体、学生ら120人のエネルギーが京都信用金庫 西陣支店のクリエイティブcommons NISHIJIN に結集しました。主催側として、榎田隆之 京都信用金庫理事長、宗田好史 西陣R倶楽部 会長・京都府立大学副学長から「これからの西陣のあり方を考えるコミュニティづくりが進み



2019年10月25日(金)撮影

全国賃貸住宅新聞

企業研究 vol.021

28校と提携し学生仲介年1700件

1974年の創業以来、京都市北部で管理・仲介を中心に不動産事業に取り組んでいる。吉田創一社長は、4年前に社長に就任。企業理念である「地域に貢献」を継承しつつ、社員一人ひとりの働き方の意識改革を行う。新たな風を取り入れる

2019年(令和元年) 7月22日・29日(月) No.1375



リノベーション解体新書

職住一体の京町家に復元 10畳の玄関土間を設置

築90年が経過した京町家を、外観や職住一体の形態を維持しながらフルリノベーションしたのは、京町家の活用に積極的に取り組むフラットエージェンシー(京都市)だ。

2019年(令和元年) 7月8日(月) No.1373



中信ビジネスフェア2019 「第31回 大商談会」

新たなビジネスが生まれる異業種交流会に出展

フラットエージェンシーのブースでは、事業内容、新たな取り組みなどを、大型パネルの展示や資料、パンフレットなどで積極的にPRしました。

【開催日時】2019年10月16日(水)・17日(木)

【開催場所】京都府総合見本市会館(京都パルスプラザ)大展示場他



皆さんと一緒に夢をもって行動できることを期待します」との挨拶がありました。

参加者は、20ヶ所のテーブルに別れ、「① 私の考える西陣の文化と観光」「② 私の考える西陣の産業と新産業」「③ 私の考える西陣の地域と暮らし」のテーマからひとつを選び活発な議論が展開し、テーブル毎に議論の内容発表がありました。

その後、交流を深める「大バーベキュー大会」では、和気あいの笑顔と会話が盛り上がり楽しいひとときとなりました。

主催：西陣R倶楽部・西陣サロン / 協力：グローバル人材開発センター・ラジオミックス京都
協賛：京都信用金庫・株式会社フラットエージェンシー



西陣R倶楽部

西陣R倶楽部は、人々とこれを支援する人々が集い、情報交換と情報発信の拠点となるサロンであり、更なる人材集積と既存空間の活用による界隈の活性化を目指しています。